



株主のみなさまへ

第141期中間報告書

平成20年4月1日から9月30日まで



エンシュウ株式会社

CONTENTS

目次

ごあいさつ	1
営業の概況	3
中間連結財務諸表	5
トピックス	7
会社の概況	9
株式の状況	10



本社及び工場



浜北工場

TOP MESSAGE

ごあいさつ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当中間連結期間におけるわが国経済は、原油・原材料価格の高騰や米国のサブプライムローン問題に端を発する世界的な金融不安の影響により、景気の減速感が強くなってまいりました。

このような情勢の中で当社グループは、顧客ニーズに応え得る商品開発や生産コスト削減を推進するとともに、積極的な販売活動を展開してまいりました。

その結果、売上高は工作機械関連事業部門の増加により、連結売上高は24,874百万円（前年同期比5.9%増）となりました。

また、利益につきましては、工作機械関連事業部門の減益により連結営業利益は、613百万

円（前年同期比25.3%減）連結経常利益は538百万円（前年同期比14.0%減）となりました。連結中期純利益は、税金費用の減少により189百万円（前年同期比58.9%増）となりました。

今後も厳しい経営環境が予想される中、収益力の向上のため更なる企業体質強化が求められています。

当社グループといたしましては、平成18年4月より中期経営計画をスタートさせ、「お客様から選ばれ続ける」企業を目指すことを基本方針として、改善・改革に取り組んできました。今年度が最終年度となりますので、新中期経営計画の策定にも取り組んでまいります。また、内部統制の強化も図っております。

当社グループといたしましては、安定した経営基盤の確立に、全社一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

なお、第141期の中間配当につきましては、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、財務状態が十分ではなくその実施を見送らせていただくこといたしました。

平成20年 12月

代表取締役社長

中安茂夫



REVIEW OF OPERATIONS

営業の概況

平成20年4月1日から平成20年9月30日に至る当社グループ第141期中間連結期間の営業の概況をご報告申し上げます。



▲横形マシニングセンタ GE90H

工作機械関連事業部門

当中間連結期間における工作機械業界（日工会）の受注総額は7,385億円（前年同期比7.5%減）となり、6年ぶりのマイナスとなりました。内需（前年同期比12.9%減）・外需（前年同期比3.1%減）ともに前年同期を下回りました。また、当社の主要顧客である自動車関連業界向けの受注も前年同期を下回りました。

そのような中で工作機械事業は、当社グループの強みであるシステム機械を柱に自動車関連業界を中心として国内外に積極的な営業活動を展開し、拡販に努めてまいりました。受注につきましては景気減速の影響もあり、自動車関連業界の需要が減少し前年同期を下回りましたが、売上高につきましては、システム機械の売上が増加し前年同期を上回りました。

また、光関連事業につきましては、光技術をコアとして浜松ホトニクス株式会社と連携、協業を推進してまいりました。販売体制を強化し営業支援のための加工技術の向上、用途開発にも取り組みました。特に高出力半導体レーザー加工機につきましては環境負荷低減や高品位な加工に対するニーズが高まり、溶接、焼入れ、切断分野に実用機としての納入実績が増加してまいりました。

その結果、売上高は前年同期を上回ることができました。

以上の結果、工作機械関連事業部門の売上高は13,042百万円(前年同期比16.1%増)となり、営業利益は海外販売子会社の減益により210百万円(前年同期比60.6%減)となりました。



▲オイルパン加工ライン



▲シリンダーブロック加工ライン

現在、世界的な景気後退の影響による設備投資計画の見直しや延期などにより、厳しい状況ではありますが、グローバル化の進展に伴う海外需要に対応すべく、海外戦略を強化していきます。営業部門では海外販売子会社を中心に販売およびサービス体制を整備していきます。特にアジア地域は、丸紅株式会社との提携により拡販に注力していきます。

依然として顧客の納期要求や価格競争は厳しく、更なる原価低減と生産性向上が求められています。技術部門ではシステム機械周辺装置の標準化や仕様の見直し等によりコストダウンを図り、また、マシニングセンタの商品開発も強化していきます。製造部門では、TPM活動をベースに生産性向上によるリードタイムの短縮、また、調達部門の強化や海外調達の拡大による原価低減にも取り組みます。

光関連事業におきましては、高出力半導体レーザー加工機の認知度が高まり、新たな工法開発に関わる引合いも増えており、営業力の強化や加工技術の向上により販売を推進してまいります。また、浜松ホトニクス株式会社および大学との連携による研究・開発を引き続き推進してまいります。



▲高出力半導体レーザー溶接システム L1



輸送機器他関連事業部門

当中間連結期間におきましては、自動車部品の生産は増加しましたが、大型二輪車及びバギー車用エンジン部品の生産減少により、売上高は前年同期を下回りました。しかしながら利益につきましては、自動車部品の売上増加、費用削減により、前年同期を上回りました。

その結果、輸送機器他関連事業部門の売上高は11,831百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益は412百万円（前年同期比36.0%増）となりました。

今後につきましては、景気後退による仕事量の減少が予想され環境は厳しさを増しております。営業力強化による新規製品の取入れを拡大させるとともに、TPM活動を基軸に一層の工場改善を推進し原価低減および費用削減に努めてまいります。また、品質向上に向けての体制の強化にも取り組んでまいります。



▲クランクケースライン

中間連結貸借対照表(要旨) (平成20年9月30日現在)

(単位 百万円)

項 目	金 額	項 目	金 額
●資産の部●		●負債の部●	
流 動 資 産	24,022	流 動 負 債	18,004
現金及び預金	1,458	支払手形及び買掛金	10,416
受取手形及び売掛金	8,583	短期借入金	5,041
有価証券	87	未払法人税等	67
商品及び製品	3,001	賞与引当金	370
仕掛品	6,343	その他	2,108
原材料及び貯蔵品	603	固 定 負 債	12,831
その他	3,962	長期借入金	8,056
貸倒引当金	△17	退職給付引当金	2,226
固 定 資 産	16,193	役員退職慰労引当金	113
有形固定資産	15,861	負ののれん	8
機械装置及び運搬具	5,195	その他	2,426
土地	7,472	負 債 合 計	30,835
その他	3,192	●純資産の部●	
無形固定資産	26	株 主 資 本	6,131
投資その他の資産	305	資 本 金	4,640
その他	396	資 本 剰 余 金	1,230
貸倒引当金	△91	利 益 剰 余 金	305
資 産 合 計	40,215	自 己 株 式	△44
		評 価・換 算 差 額 等	3,204
		少 数 株 主 持 分	43
		純 資 産 合 計	9,379
		負 債 純 資 産 合 計	40,215

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書 (要旨) 自平成20年4月1日
至平成20年9月30日
(単位 百万円)

項目	金額
売上高	24,874
売上原価	22,713
売上総利益	2,160
販売費及び一般管理費	1,546
営業利益	613
営業外収益	122
営業外費用	198
経常利益	538
特別利益	21
特別損失	302
税金等調整前中間純利益	256
法人税、住民税及び事業税	61
法人税等調整額	0
少数株主利益	4
中間純利益	189

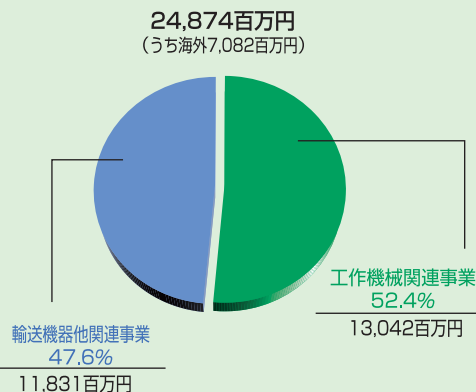
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) 自平成20年4月1日
至平成20年9月30日
(単位 百万円)

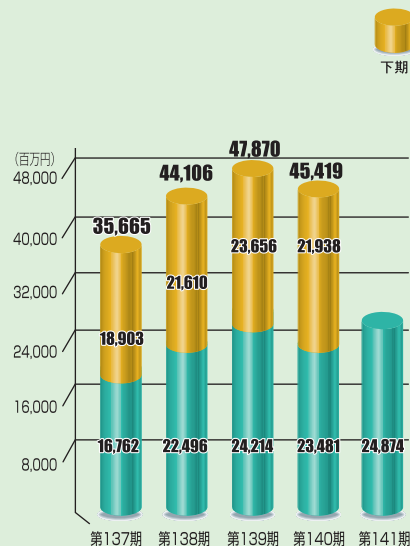
項目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,087
投資活動によるキャッシュ・フロー	△511
財務活動によるキャッシュ・フロー	△118
現金及び現金同等物に係る換算差額	△42
現金及び現金同等物の増加額	1,414
現金及び現金同等物の期首残高	2,770
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,184

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

売上高



売上高の推移



● シカゴショー2008(IMTS2008)

世界三大国際工作機械見本市のひとつ「IMTS2008 シカゴショー」が2008年9月8日から13日まで米国シカゴ市のマコーミックプレイスで開催され、9万2千名以上の来場者、出展社数は1803社と前回を超えた盛況ぶりでありました。

当社からはワイドスペース横形マシニングセンタJE30SL、超高速横形マシニングセンタJE60G、300本ツールマガジン&多面パレット付横形マシニングセンタJE80S、

高生産性横形マシニングセンタJE80Gの4台の横形マシニングセンタを出展し、来場者の好評を得ました。



● SIMTOS 2008

韓国最大規模の国際工作機械展であるSIMTOS 2008（ソウル国際工作機械展）が4月8日～13日迄、韓国・ソウルの韓国国際展示場で開催されました。当社からは『JE60G』、『EV530』、高出力半導体装置『L1』を出展しました。当ブースへも多くのお客様に来て頂き、特にレーザー溶接は実機での実演で好評を得る事ができました。韓国国内の大学、企業などから多数の問い合わせ、引き合いを受け、成果のある展示会となりました。



● 新機種紹介(GE90H)

GE90Hは超大型の横マシニングセンタです。ストロークは1000×900×1050(mm)、高剛性ベッド、重切削主軸の機械でありながら早送り50mで加工時間の短縮を図った高速機です。

高い生産性、安定した精度維持、充実した保守支援を組み込んだ信頼性の高いマシンを開発しました。

COMPANY PROFILE

会社の概況

商号	エンシュウ株式会社 (英文 ENSHU Limited)
設立	大正9年2月5日
資本金	46億4,085万円
発行済株式総数	63,534,546株
株主数	9,351名
従業員数	966名(連結)
生産品目	工作機械、輸送機器関連部品 半導体レーザー加工機

事業所

本社及び工場 〒432-8522 静岡県浜松市南区高塚町4888 電話 053-447-2111(代)

浜北工場 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-0211(代)

営業部・支店

営業部 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-4771(代)

東京支店 〒140-0011 東京都品川区東大井4-13-15 (スターハイツ)
電話 03-5479-1671(代)

大阪支店 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-23-43 (ファサード江坂ビル)
電話 06-6338-2471(代)

サービスステーション / 高崎・金沢・広島

海外現地法人

ENSHU(USA)CORPORATION (シカゴ)
ENSHU GmbH (フランクフルト 郊外)
ENSHU(Thailand)Limited (バンコク)
BANGKOK ENSHU MACHINERY Co.,Ltd. (バンコク)

役員

(平成20年9月30日現在)

代表取締役社長	中安茂夫
専務取締役	千賀伸一
常務取締役	安田俊二
取締役	中村泰之
取締役	小木国典
取締役	中村和夫
取締役	仲山正明
常勤監査役	松山美廣
常勤監査役	澤木達治
監査役	石塚尚
監査役	鈴木芳男

STOCK REPORT

株式の状況

1. 株式の総数・資本金

発行可能株式総数	150,000,000株
1単元の株式数	1,000株
発行済株式の総数	63,315,001株 (自己株式219,545を除く)
資本金	4,640,850,000円

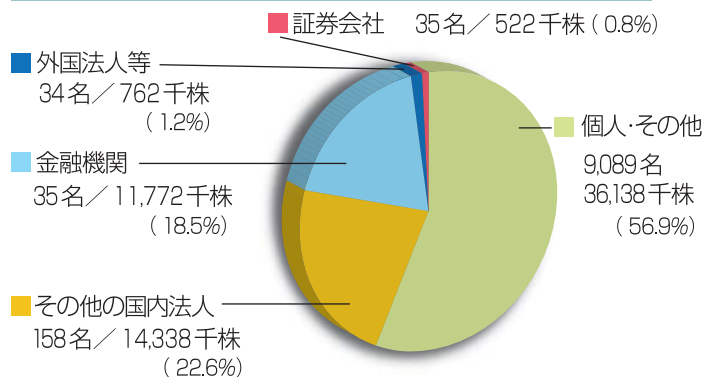
2. 大株主

ヤマハ発動機株式会社	6,456千株 (10.19%)
エンシュウ取引先持株会	4,643千株 (7.33%)
丸紅株式会社	3,612千株 (5.70%)
浜松ホトニクス株式会社	2,000千株 (3.15%)
株式会社みずほコーポレート銀行	1,572千株 (2.48%)
みずほ信託銀行株式会社	1,455千株 (2.29%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,431千株 (2.26%)
株式会社りそな銀行	1,414千株 (2.23%)
株式会社損害保険ジャパン	1,363千株 (2.15%)
明治安田生命保険相互会社	1,197千株 (1.89%)

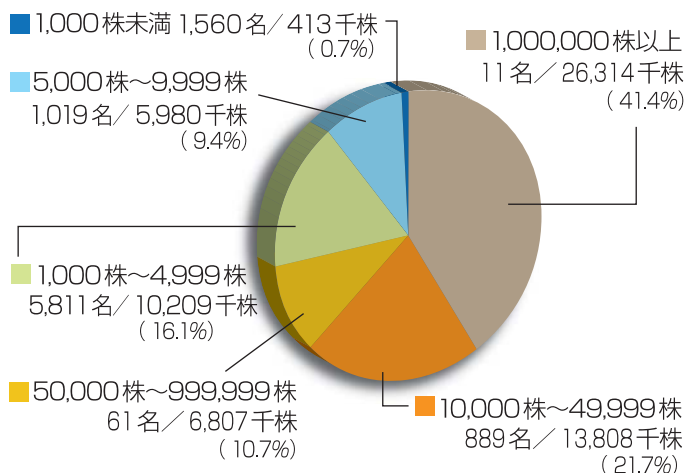
(注) 比率は発行済株式総数から自己株式を控除して計算しております。

3. 株主の構成

所有者別株式分布状況 合計: 9,351名 / 63,534千株



所有株数別分布状況 合計: 9,351名 / 63,534千株



(注) 株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

4. 当期中の株式異動

名義書換件数	188件
名義書換株数	3,156,490株
当期末株主数	9,351名

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日 (期末配当) (中間配当)	3月31日 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告 (http://www.enshu.co.jp/koukoku/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
株式の上場	東京、名古屋両証券取引所市場第一部

郵便物送付先

平成20年12月30日まで

〒135-8722
東京都江東区佐賀1-17-7
みずほ信託銀行 証券代行部

平成21年1月5日より

〒168-8507
東京都杉並区和泉2-8-4
みずほ信託銀行 証券代行部

お問い合わせ先

(未払配当金の受領など)

フリーダイヤル **0120-288-324** (変更ありません)

お知らせ

平成21年1月より株券が電子化されます。そのため株式に関するお手続きに変更がある場合がございますのでご注意ください。詳しくは、上記「お問い合わせ先」にお問い合わせください。

なお、証券会社等をご利用の場合の住所変更や買取請求等は、引き続きご利用の証券会社等へご連絡願います。未払配当金につきましては、上記「お問い合わせ先」にお問い合わせください。



ホームページのご案内

当社はインターネット上で最新の情報を皆様に提供しております。

ホームページアドレス <http://www.enshu.co.jp>

Enshu
エنشユ株式会社